

社会共創学部プロジェクト基礎・実践・応用演習概要（令和3年度実績）

産業マネジメント学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
JR四国連携事業「地域観光チャレンジ2021」 ①和紙から感じる古き良き内子・②がいなまち宇和島	JR四国	西村 勝志 岡本 直之	四国の観光産業は、コロナ禍にあって大きな打撃を受けている。ようやく落ち着きを取り戻し、学生によるツアー企画・実施が実現しようとしている。このツアー企画は、ゼミ生が地域ステークホルダーの協力の下で、学生らしい独自のアイデアを盛り込んだツアーを企画し、JR四国の下で販売を試みるものである。PDCAサイクルを通して販売結果の振り返りも行うことで、地域に眠る資源の掘り起こしから、地域ステークホルダーとの連携協働の下での観光産業の振興につなげ、究極的には地域活性化を図るとするプロジェクトである。
お助け隊制度で、休みやすく、働きやすく ～シミュレーションで休暇取得率の向上を検証する～	愛媛県庁	徐 祝旗	働き方改革が進んでおり、休暇制度の充実が図られつつある。しかし、職員の勤務状況や休暇取得の促進について具体的な分析や提案はあまり実施されていない。実際に、制度整備は行われたものの、活用しにくい、あるいは、十分活用されていないという指摘があった。そこで、我々は、まず、アンケート調査によってモデルケースとして選んだ愛媛県庁職員から働き方の現状と理想を定量的に調査した。休暇を取得したくとも取得しにくい課題に対して、残業や休暇取得によって生じる業務量を解消するために、業務量シェアリングに向けたお助け隊制度を提案した。本提案について、アンケート調査結果と出退勤データに基づいたシミュレーションを行い、解決策の実証研究を行った。研究の結果により、我々の提案の有効性が一定の条件のもとで確認できた。希望通りに休暇を取得した場合、お助け隊の活用によって、30~50%の確率で、業務を完遂できることが分かった。
業界別メイク手法	愛媛NBC	川口 和仁	本プロジェクトでは、社会心理学で検証されてきた「類似性の法則」に基づき、各業界における社員の顔タイプの類似性について分析した。分析手法としては、10業界60社の男女別に収集した社員顔写真(約600枚)をAIクラスター分類し、各画像クラスターにおける業界占有率を比較した。最終的には、分析結果から各業界ごとに顔タイプの特徴を読み取り、採用希望者が求職先に好印象を残せるような業界別メイク戦略を提案する。
パン予約サイト「パンクル」の知名度向上のための実践	愛媛朝日テレビ、株式会社アービンズ	岡本 隆	パン予約サイト「パンクル」は、ペーカリー商品を、アプリで予約注文することができるECサービスで、フードロス削減も理念に掲げている。しかし現時点では知名度、加盟店数、利用者数が伸び悩んでいる。そこでその課題を解決するために、ソーシャルメディアやブログなどを活用する取り組みを行なっている。ECに関する知識やノウハウを実践するプロジェクトである。
出産後の就業継続についての意識に関する調査 ～就業意識からみる女性が働き続けられる環境とは～	ジョブカフェ愛work（愛媛県若年者就職支援センター）	曾我 亘由	結婚・出産に伴う女性の家事・育児の負担の増加は、就業の継続を困難にさせ、女性の離職率が高い原因の一つとして挙げられる。本プロジェクトは結婚・出産後の就業継続や働き方に対する意識や女性の就業継続を困難にさせる要因を明らかにし、その解決策を提示する。とりわけ、結婚・出産後も女性が就業を継続するための男性の役割や企業の支援策について検討する。
知ってびっくり!食べてびっくり! 中山栗のマーケティング	なかやま栗センター、JAえひめ中央	谷本 貴之	若者へ向けた中山栗の高級感・品質の良さのイメージの定着化、ブランドのさらなる認知度の向上を目的とする。調査方法として、なかやま栗センターやJAえひめ中央へのインタビューと、10代以上の男女への中山栗や栗全般に関するアンケートを実施し、それらの結果の分析を踏まえて、若者への認知度向上のためのマーケティング方法を提案した。
Sharing Economy 日本におけるシェアリングエコノミーの新たな可能性	愛媛NBC、明治大学・研究者（日本・スウェーデン）、一般社団法人 シェアリングエコノミー協会、シェアリングエコノミーサービス事業者数社など	折戸 洋子	本プロジェクトは、研究者や事業者へのインタビュー調査および一般個人へのアンケート調査を実施することによって、日本におけるシェアリングエコノミーの概念やそのビジネスモデルの本質や特徴、日本特有のシェアリングエコノミーの課題と可能性について考察する。また、どのようにシェアリングエコノミーがSDGsや地域経済に貢献しうるのかに関して、そのポテンシャルを検討する。
三津を飽きさせず、誰もが何度でも楽しめるために	みつはまクリエイターズ、コトラボ合同会社	山口 信夫	地方都市においては、人口減少なども遠因となり、大規模な都市環境の改変を伴うまちづくり手法（例：大規模再開発プロジェクト）が時代錯誤のものとなりつつある。こうした観点から注目を集めているのが、身の丈規模のリノベーションを面的に展開し、地区の活性化および生活基盤の改善に結び付けていく取り組みである。本プロジェクトでは、その最前線の取り組みをヒアリング調査し、重要論点を整理する。
就労前の学生が考える理想の職場環境モデルの策定	愛媛NBC、インタビュー先企業10社（サイボウズ株式会社、株式会社ハート、浅川造船株式会社、株式会社母恵夢、アカマツ株式会社（※）、えひめ洋紙株式会社（※）、株式会社バンダイナムコビジネスアーク、株式会社日本経済新聞社、カルビー株式会社、株式会社電通マクロミルインサイト。※は愛媛NBC会員企業）	園田 雅江	働く人のモチベーションは職場環境によって変化するのか？について、休日、休暇、社内の人間関係、ハラスメント、育児へのサポートなどを中心に、就労前の学生がイメージする働きやすくやる気である職場環境と企業の実態の乖離やその理由について、インタビューしながら課題を抽出し解決策等を考えたうえで、理想の職場環境モデルを提示する

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
コロナ禍が企業業績に与えた影響 (代表者1名の研究成果)	—	橘 恵昭	学生の個人研究のため、ゼミ全体としてのプロジェクトは実施していない。
西条市へ人と呼び込むために	西条市役所	野澤 一博	人口減少が続く状況において、地域ブランドは単に產品の高付加価値化を図るだけでなく、地域の魅力を向上させ定住人口の増加を図る手段として活用されている。本プロジェクトでは、アンケート調査とヒアリング調査から西条市において生活環境としての地域の魅力を分析し、定住人口増加につながる策について検討する。

産業イノベーション学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
魚類の内臓の有効な活用法の検討	なし	松原 孝博	普段食べられることのない魚類の内臓を適切に活用するために、下処理の方法から料理の案を検討することを目的とする。魚独特の生臭さの解消を重視し、下処理と料理案を考え、実際に複数の下処理方法や料理を作り、南予水産研究センターの学生や職員に試食してもらう。その後、官能評価およびアンケート調査を行うことで適切な下処理方法と料理を評価する。最後に、魚類の内臓の商品価値を考察する。
海藻を使った新たな水産加工の提案	なし	松原 孝博	現在海産物としてあまり根付いていない食品の有効活用を目的とし、以下のようなことを実施した。まず、愛南町で採取したアオサと養殖しているヒロメを用いて、新たな海藻の使い道を模索した。そして、実際に加工食品を調理し、教員と学生を対象として官能評価やアンケートを行い、高い評価を得られたものを、これからの愛南町での新たな水産加工品として提案する。
雑食魚における藻類及び野菜類を配合した飼料による影響	なし	松原 孝博	本プロジェクトにおいては藻類及び野菜類を配合した飼料が雑食魚に与える影響について研究を行う。試験魚としては愛南町で釣ったメジナを用いた。与える飼料としては人工飼料のみ、人工飼料に藻類や野菜類を混ぜたものを用いる。試験水槽は2個の1t水槽を区分して4つの区画に分けたものを用いる。測定項目は全長、体重、生存率、官能評価とする。これによって藻類や野菜類が魚に与える影響を把握することを目的とする。
中華まん台紙の作製 ～原紙の作製と剥離剤塗工条件の検討～	なし	深堀 秀史	中華まん台紙は、紙に剥離剤を塗工することで製造されており、剥離性、水蒸気透過性などの性質が求められる。その中でも特に剥離性に着目して原紙の作製と剥離剤の塗工を行った。調査の結果、紙表面の凹凸を限りなく小さくし、そこに剥離剤を均一に塗工することが重要だとわかった。原紙の表面を滑らかにした上で剥離剤の選定を行い、塗工する量を検討したことで、中華まんが綺麗にはがれる紙を作製することができた。
紙ストロー用原紙の設計と加工法の検討	なし	深堀 秀史	紙ストローとは紙を円筒状に巻いた製品であり、水に浸漬して使用するため、撥水性や強度を付与する必要がある。本演習では、撥水性および強度を向上させる薬品を原料に添加して、紙ストロー用の原紙を調製した。薬品の配合割合を検証した結果、目標値である特許で報告されていた紙ストロー用原紙に匹敵する紙を作製できた。加えて、原紙をストロー状に加工する際に、接着剤の塗布量や原紙の巻き方等も検討した。
農業分野における新しい植物体切断具の検討	トマト農家（伊予市）	小長谷 圭志 高橋 学 山本 智規	植物体を切断しながら刃物を消毒する画期的な外国製ハサミがあり、消毒液を押し出すには容器を強く握ることが求められる。また、刃先が上方を向いて利用する際は消毒液が噴出しにくいという問題や、刃先の摩耗や腐食による劣化は、農業従事者の作業負担となっている。そこで、従来と異なる人間工学に基づいた収穫機構をもつ切断具の開発を試みた。
愛媛県産木材を利用したバランスバイクの試作	なし	高橋 学 山本 智規 小長谷 圭志	愛媛県が取り組んでいる自転車新文化推進に関する計画をヒントに、主要産物であるヒノキを用いたバランスバイクの製作を行う。積層構造を利用し、木材の柔軟性を取り入れ、乗り心地の良いフレームを目指し、接着剤の選定や木材の強度試験から、大学で学んだ設計手法を駆使して寸法形状を検討している。最終目標は製作したバランスバイクで、試乗会やレースを行うことを目指している。
真珠の分離・分別装置の開発	真珠養殖業（宇和島市）	高橋 学 山本 智規 小長谷 圭志	規格外の真珠は、中心核とその周りを覆う真珠層の二層に分離され、化粧品など様々な分野で再利用されている。一方、アコヤ貝内面にも真珠層と同質層が形成されるため、真珠層と区別するために、球殻形状を残した分離装置の開発が望まれているが、効率よく分離する方法は未だ存在しない。本プロジェクトでは、高速回転による衝突分離装置を試作し、衝突破壊を科学的な視点で分析することで、最適な分離条件の確立を目指すとともに、混在する二層破片を分別する装置の開発も行っている。
養殖生け簀内におけるプラスチック回収装置の開発	なし	山本 智規 小長谷 圭志 高橋 学	海面のマイクロプラスチック問題に注目し、特に魚が誤食する1～2mm程度のプラスチックの回収装置の開発を試みる。愛媛県は養殖業が盛んな地域であり、養殖魚が誤ってプラスチックを食べることで、成長が抑制されたり、死に至ることが報告されているが、その対策は難しい。本プロジェクトは養殖生け簀内の条件に絞って、低電力で動作する回収装置を検討した。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
施設園芸農業における自動収穫ロボットの移動機構	なし	山本 智規 小長谷 圭志 高橋 学	農業従事者の高齢化および人材不足により、ブランドや稀少農産物の生産も危機的な状況が予測されている。国家プロジェクトとしてスマート農業が振興されている中、本プロジェクトは農業施設内での収穫自動化を目指し、ロボットが移動する足場（レール）を天井部に設置することで、安定走行、作業者との安全確保を考えた。レール等の資材は安価で入手が容易な農業資材の適用を提案し、試作モデルを検討する。
インスリンバッグの改善	医療従事者、患者団体(松山市)	高橋 学 山本 智規 小長谷 圭志	「1型」糖尿病をもつ小児は、常にインスリンを携帯し、食事前に適量を注射することが行われている。インスリン用バッグを持つことは病気のみならず、精神的ストレスを伴うことや、バッグの温度環境維持などの負担があることが、アンケート調査から明らかとなった。多くの課題の中で、温度を保つ機能の付与やバッグ構造の改善に着目し提案することで、インスリン注射器使用者の負担軽減を考えている。
養蜂のIoT化	養蜂業者（松山市）	山本 智規 小長谷 圭志 高橋 学	日本の養蜂家は近年高齢化および減少傾向にあるため、生産量を維持するには作業の効率化を図ることが重要である。山間部のコロニーで蜂が越冬する際の給餌補充作業は、ほぼ毎週実施する必要があるが、天候によってその量は変動する。そこで餌の残量を確認する作業のIoT化を提案する。また、データを取得により、蜂の健康状況も把握できる可能性がある。養蜂家の負担軽減のみならず、作業をデータ化することで新規参入者への支援として有効活用が考えられる。
聴覚障害者向けの電車支援サービスアプリの開発	鉄道会社等（四国）	山本 智規 小長谷 圭志 高橋 学	駅構内や電車内のバリアフリー化は、ソフト面で遅れている。音声案内を聴き取りにくい聴覚障害者にとって、現在のサービスは時間的対応が遅れ、不便を感じる面が大きい。そこで、QRコードを読み込むだけで即座に音声案内の内容を取得できることを考えた。電車内は走行音でアナウンスが聴き取れない場合が多いことから、周波数解析を行い、アナウンス音の周波数領域のみを抽出し、文字化するアプリ開発を行い、実装を目指している。
電動車いすの自動運転におけるステアリングシステムの開発	メーカー(松山市)	山本 智規 小長谷 圭志 高橋 学	高齢化により歩行を補助する乗り物として電動車いすが利用されているが、その事故は増加傾向にある。走行速度は歩行速度と同じであることから、運転者の注意が散漫となり事故が発生するケースが報告されている。自動運転技術開発が様々な分野で行われている中、本プロジェクトでは、電動車いすの自動運転化を目指し、市販の電動車いすを改良して行う。開発ポイントは多岐に亘るため、ステアリングシステムの開発を進める。

環境デザイン学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
雨量の少ない瀬戸内での小型の小水力発電の検討と伊予市への提案	伊予市	入江 賀子	瀬戸内は、雨量が少ないため、小水力発電の事例は多くない。また、小水力発電が経済的に可能な地域では、既に導入されている状況であり、追加の開発ポテンシャルは小さいと考えられている。しかし、本授業では、小型の小水力発電を組み合わせた全国初の防災対策用の小水力発電システムや、観光面の効果も見込まれる小水力発電を伊予市内で検討する。また、その結果を伊予市に提案するものである。
ウイズ・コロナ時代のオンラインツーリズムの可能性 ー四国西予ジオパークに関する双方向コミュニケーションを取り入れたオンラインツアーを事例としてー	西予市役所政策企画部まちづくり推進課	榊原 正幸	四国西予ジオパークに対する興味・関心の向上を目的としたInstagramの運営およびその活用方法の開発から新しいオンラインツアーへと発展させた。現地に行くことが困難なウイズ・コロナ時代の状況下において、双方向コミュニケーション手法を取り入れたオンラインツアーの役割について考察し、今後のツーリズムにおける新たな価値創造とその意義を示す。
二十歳を聞く、知る、書く	個人名のため掲載なし	渡邊 敬逸	20歳（ハタチ）という時期は、大学進学にともなう生活環境の変化、新しい人間関係の形成にともなう社会関係の変化、そして、未成年から成年とされることにともなう法的立場の変化など、自身をめぐる様々な環境に大きな変化が発生し、人生の転機となりうる時期である。本プロジェクトでは20歳前後を迎える学生が、様々な方々に「20歳の頃のライフヒストリー」をインタビューし、「20歳という社会環境の意味」を明らかにするとともに、学生自身が自らの20歳という時期の過ごし方を省察することを目的とする。
JR近永駅周辺の活性化策の提案	鬼北町	松村 暢彦	鬼北町にある予土線JR近永駅周辺は近年、官学民が連携して活性化に向けてワークショップを行うなど市街地の活性化に向けて積極的な動きがみられる。さらにその流れを加速していくために、JR近永駅周辺にある旧旭郵便局、昭和の長屋、三間川などの自然環境の地域資源を活かしつつ、集積を促進していくための拠点整備と軸間回遊性を高めるためのしくみと空間整備について鬼北町に提案する。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
松山城の眺望景観を考える	松山市役所都市デザイン課	片岡 由香	松山城は松山市の街なかおよび直径5km圏内のあちこちから望むことができ、松山のシンボリック的存在であるが、ここ15年ほどでマンションの建設等により眺望地点が少しずつ消失している。行政の景観規制による松山城の眺望について保全することは難しいが、市民意識を高めることで緩やかな規制を促すことは可能である。松山城の眺望について市民に関心を持ってもらうため、「松山城フォトエッセイ」のイベントを企画し、作品を募集した。その結果得られた作品について、ロープウェイ駅舎で展示している。
平成30年7月豪雨の教訓 ～西予市を対象として（施設管理者・行政対応）～	西予市危機管理課 肱川ダム統合管理事務所	二神 透	気候変動に伴う降雨環境の変化に伴い、国土交通省は最大想定規模の降雨による浸水区域の公表と、各自治体によるハザードマップの作製を義務付けている。今後、県内の河川流域における甚大な浸水災害が想定される。そこで、平成30年7月豪雨で甚大な被害となった西予市を対象に、異常洪水時防災操作を行った野村ダム管理者、西予市危機管理課職員を対象に、対面ヒアリング形式で当時の課題と、現在の対応について整理する。
マルチスピーシーズが楽しめる城北キャンパス	城北キャンパスの学生と野鳥	ルブレヒト クリストフ	大学のキャンパスは日常から学生や教職員に限らず、多様なステークホルダーに利用される空間であり、近年は生態系とパブリックスペースとしても注目されてきた。本プロジェクトでは多様な人と生き物がより共生共栄できる場づくりに向けて、エディブル・キャンパスから人と生き物の触れ合いや生物季節モニタリングまで、愛媛大学城北キャンパスの現状と可能性を検討する。
小水力発電の立ち上げの仕組みや地域との関わり －他県の先進事例からの示唆	特になし	李 賢映	再生可能エネルギーによるエネルギー地産地消は、エネルギー安全保障は勿論、地球温暖化緩和の観点からもその重要性は益々高くなっている。本プロジェクトでは小水力発電を地元主導で実現した他県の事例から小水力発電立ち上げの仕組みや地域との関わりを得、愛媛県西条市の関連ステークホルダーとその結果を基に議論し、愛媛県西条市における小水力発電普及を目指すものである。
「地域スूप」づくりによる地域ブランディング： 西予市横林地区の取り組み	西予市横林公民館	羽鳥 剛史	西予市横林地区の住民と大学生が一緒になって、横林地区の特産品を使ったご当地スूपづくりに取り組み、スूप開発を通じた地域らしさのブランディング化を進める。
土砂災害発生地域におけるGISツールを用いた土砂災害危険地域抽出法の評価	特になし	バンダリ ネットラ P.	土砂災害危険地域の指定は、主に崖崩れ、土石流、地すべりの3種類の斜面崩壊による土砂の移動現象を基に行われている。近年頻発する土砂災害地において、崩壊斜面の位置データは国土地理院により数日以内に提供されており、土砂災害研究に非常に役に立っている。本プロジェクトと演習では、まずは学生に土砂災害危険地域とGIS技術について学んでもらい、災害発生地とGISツールを用いた予測災害地の関連性を検討する。

地域資源マネジメント学科

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
愛媛県等との連携による「集落活性化意識醸成支援事業」の取り組み	愛媛県地域政策課、えひめ地域活力創造センター（旧えひめ地域政策研究センター）、新居浜市、内子町	笠松 浩樹 竹島 久美子	愛媛県地域政策課およびえひめ地域政策研究センターと協働し、過疎・高齢化が進んでいる地区で地域づくりへの意識づけと交流人口の拡大を行っている。2021年度は、新居浜市大島地区、内子町小田地区での活動を展開してきた。これを契機に、過疎・高齢化の状況把握、住民との対話、高等学校との連携が進展した。また、昨年度の活動を引き継ぎ、学生団体「未完商店」の運営、少人口多数社会の萌芽も実践している。
地域文化の保存・継承に向けた 文化資源マネジメント実践 －愛媛県内子町・東予地方を事例に－		井口 梓	内子町小田深山の旧森林鉄道、及び関連施設と林業集落を対象に現地調査、古写真等を基にした復元作業を実施し、その成果を活用したパブリックヒストリーの実践（郷土学習、公開講演等）を行った。また、東予5市町の文化資源（大見神楽、雨乞い、真鍋家住宅、別子銅山産業遺産、うちぬき）の維持継承・活用に向けて、県・高校生との協働による調査、ディスカッションを実施し、マネジメントとの一環としてコンテンツ制作を実施した。
愛媛県西条市における陣屋建築の現状調査	西条市教育委員会	佐藤 大規	伊予国（愛媛県）には、西条・小松・今治・松山・大洲・新谷・吉田・宇和島の八つの藩があった。この内、西条・小松・新谷・吉田は、陣屋と呼ばれる藩主の住居兼政庁を構えていた。本研究では西条と小松陣屋の現存する建物に注目して、その構造や細部意匠などを比較検討することで、それぞれの特徴や石高による違いなどを明らかにする。その上で、城郭建築の一部である陣屋建築の文化遺産としてのあり方や今後の課題について検討した。

プロジェクトタイトル	関係するステークホルダー	授業担当教員名	プロジェクト概要
愛媛県伊方町におけるサダワン動画の分析を通じた地域認識の可視化と地域資源の活用	伊方町商工観光課	淡野 寧彦	愛媛県伊方町観光工商課が実施する「佐田岬ワンダービューコンペティション」(サダワン)に投稿された動画を対象として、伊方町のどのような場所や事物に認識や関心が集まっているのかを分析した。この結果をふまえてさらに、認識や関心はまだ低いものの、伊方町の歴史や文化を有する場所を取り上げ、地域住民らとともに、その魅力やPR方法など、地域資源としての活用のあり方について検討した。
大洲市新谷地区の産業・文化を活かした活性化		寺谷 亮司	2、3回生で4つの調査班を構成し、大洲市新谷地区を調査地域として、調査テーマ、調査方法、調査のためのアポ取り、調査報告書の章節構成を検討した。調査は、11月10日と11日に、1泊2日にて実施し、年度中に調査報告書を作成する。
砥部焼歴史遺産の可能性を探る ー江戸創業期の窯跡調査を通してー		楨林 啓介	愛媛県砥部町における砥部焼歴史遺産の可能性を探るプロジェクトである。砥部町は江戸時代中期に創業し今も操業し続ける砥部焼の窯業地で、その砥部町には実は多くの砥部焼の歴史遺産がある。しかし、その保存・活用についてはまだ途上にある。窯跡などを踏査することで遺跡の存在を明らかにし、地域の方々に知っていただきながら、地域づくりに活かせるように砥部焼歴史遺産の価値を高めていきたい。
コロナ禍に対応した運動動画の作成と子どもの走り方・投げ方講座の開催	松山市文化・スポーツ振興財団	浅井 英典	松山市文化・スポーツ振興財団主催のスポーツ教室に参画し、指導力の涵養と課題発見活動を行った。コロナ禍での教室開催制限により、体操(全33種目)動画を作成し、愛大YouTubeチャンネルにアップロードした。更に子どもの投・走能力低下に対して、小学2～4年生を対象にした「親子で運動教室 走り方・投げ方講座」を企画・運営した。親子の親睦を深めると共にiPadを活用した走及び投フォームの改善指導等を実施した。
地域の魅力創出！みてみやみあきプロジェクト ～伊予市三秋との連携・協働～	伊予市	牛山 真貴子	伊予市三秋は人口減少の改善策として【交流人口増加ー関係人口創出ー移住・定住者への発展的取組】を必要としている地域である。本プロジェクトは令和3年4月から 三秋の秋イベント「自生レンコン収穫体験会(11/3、11/21)」の企画から当日まで、約7ヶ月間、伊予市未来づくり戦略室・三秋地区住民とオンライン会議・制作・現地活動を行ってきた。本プロジェクトの特徴は、放置された竹を使った竹楽器(テレビ愛媛2021/11/11、南海放送ラジオ2021/11/21でも紹介)、オリジナルドリンク&スポーツの開発、Instagramによって三秋の魅力をバージョンアップした点にある。参加者ならびに三秋の皆さんに大変喜んでいただき、次年度の継続が決定している。
愛媛県内高齢者の健康増進・生きがい向上のための大学生によるスマホ・運動教室の実施	NPO法人えひめ高齢者ヘルスプロモーション研究会	高橋 敏明	県内の高齢者住民に対して健康増進や生きがい向上策として、さまざまな取り組みが実施されている。今回は、大学生が主体となって、高齢者住民の健康・生活満足度調査を実施し、大学生が高齢者に役立つ簡便なスマートフォン(スマホ)の様々な活用法について指導し、スマホ等を使用したオンラインでの体操教室を開催し、大学生と高齢者の方々が意見交換を行い、それぞれの望む生活スタイルや生き方を探っていく。
地域とスポーツをメディアでつなぐプロジェクト	株式会社愛媛CATV	野口 一人	株式会社愛媛CATVをステークホルダーとするプロジェクト。同社が主催・共催するスポーツ関連イベントへの参画、および学生が提案した番組企画を撮影して実際に放映し、愛媛のスポーツ振興と健康増進に寄与することを目的とする。総合型地域スポーツクラブの活動紹介、子どもの体力増進のためのトレーニング術、興居島のサイクリングコース紹介の番組を制作した。
松山市「スマートアイランド構想」発信プロジェクト	松山市	山中 亮	松山市が行うSDGs推進への取り組みの1つである「スマートアイランド構想」について、現地(忽那諸島:中島)でのフィールドワークを通じ実態や取り組みを把握した。さらに、学生の視点と自治体の視点を融合した、「スマートアイランド構想」の発信に関するプランの構築を試みた。学生らしい斬新なプランが排出できたが、今後は地域住民や自治体とも協議を継続し、プランを現実化したいと考えている。
愛媛県内各市町の健康増進計画に基づく身体活動促進事業に関する調査と実践活動	東温市	山本 直史	愛媛県内の各市町で作成されている健康増進計画(健康日本21の地方計画)と身体活動分野に関連する具体的な事業内容について、各市町のHP等で公開されている報告書や市報を通じて調査した。また、東温市の身体活動促進事業を対象にフィールドワークを行い、実態を把握した。その後、同事業において「スポーツ」専攻の学生ならではのアイデアを基にした企画を提案し、その実践を行った。